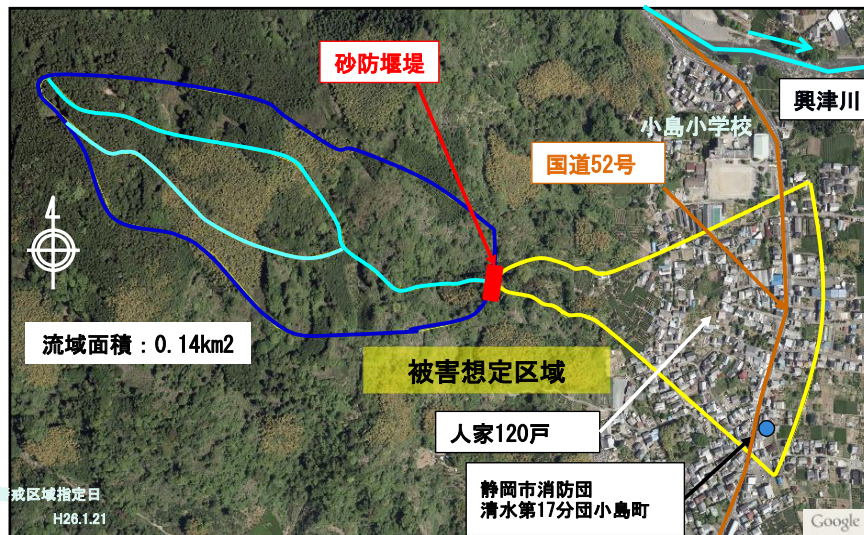


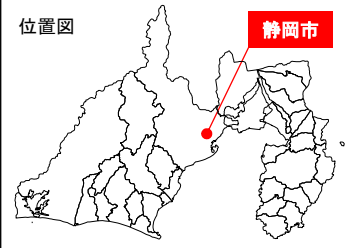
番号	14	令和8年度公共事業再評価調書				担当課名	砂防課																																		
事業名	通常砂防事業				事業主体	静岡県																																			
ふりがな	おきつがわしせんかんべえさわ				関係市町	静岡市																																			
箇所名	興津川支川勘兵衛沢																																								
事業採択年度	平成 29 年度		計画期間	令和29年度 ～ 令和9年度																																					
用地着手年度	平成 31 年度		工事着手年度	令和 2 年度																																					
再評価理由※	前回再評価後5年経過																																								
全体事業費	百万円 750	投資状況 (百万円)	～R6年度 400	R7年度 100	R8年度見込 50	計 550																																			
事業概要	(1)事業目的 静岡県静岡市に位置する勘兵衛沢は、保全対象として人家120戸、及び静岡市消防団清水第17分団小島町、国道52号等を含む土石流危険渓流であり、土石流による甚大な被害が懸念されるため、砂防堰堤を整備し、土砂災害を未然に防止したい。 (2)事業内容 砂防堰堤工： 1 基 (高さ12.0m、長さ42.0m、立積1,661m ³)																																								
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・近年、激甚災害が頻発化し、県内でも甚大な土砂災害が発生しており、静岡市においても事業着手した平成28年度からこれまでに118件の土砂災害が発生するなど、事業に対する地元の期待も大きい。 ・被害想定区域を含む地区住民にアンケートを実施したところ、回答者20世帯中19世帯が「事業を継続する必要がある」と回答しており、事業に対する地元住民からの要望も強い。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 8 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>19.1</td><td>32.9</td><td>44.8</td><td>25.4%</td></tr></table> ・総便益 (B) 110.6 億円 (平均便益：6.8億円) ・総費用 (C) 5.8 億円 (建設費：5.5億円、維持管理費：0.3億円、用地残存価値：0.03億円) ○見込まれる効果 (定性的な効果) ・土石流による甚大な被害の防止 (3)事業の進捗状況 (令和 8 年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>73.3%</td><td colspan="2">(550 百万円 / 750 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>砂防堰堤工</td><td>71.4%</td><td colspan="2">(9 m / 12 m)</td></tr><tr><td>管理用道路工</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(224 m / 224 m)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>100.0%</td><td colspan="2">(5,186.6 m² / 5,186.6 m²)</td></tr></table> <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	19.1	32.9	44.8	25.4%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		73.3%	(550 百万円 / 750 百万円)		事業量	砂防堰堤工	71.4%	(9 m / 12 m)		管理用道路工	100.0%	(224 m / 224 m)		用地取得		100.0%	(5,186.6 m ² / 5,186.6 m ²)		評価	継続が妥当
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																						
19.1	32.9	44.8	25.4%																																						
区 分		進捗率	内 訳																																						
事業費		73.3%	(550 百万円 / 750 百万円)																																						
事業量	砂防堰堤工	71.4%	(9 m / 12 m)																																						
	管理用道路工	100.0%	(224 m / 224 m)																																						
用地取得		100.0%	(5,186.6 m ² / 5,186.6 m ²)																																						
評価	継続が妥当																																								
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み 用地買収がすべて完了し、早期の工事完了に向けて令和5年度から砂防堰堤工の工事に着手している。地元住民からの期待も大きいことから、事業を計画的に推進し、令和9年度完了を目指す。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																																
評価	継続が妥当																																								
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 コスト削減対策としては、本堤の内部材としてコンクリートを用いず、現場発生土砂・セメント・水を混合し構築するINSEM工法の採用により、現場発生土砂を有効活用すること、残存型枠を採用可能な堰堤本体及び前庭保護工等の構造物に対して用いて、コスト削減と工期短縮を図っている。																																								
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 事業は順調に推移しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の推進を図る。																																								

1. 位置図・流域概要図



静岡県 静岡市 清水区 小島町

位置図



既設堰堤の堆砂状況



国道52号

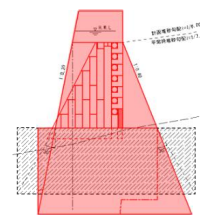
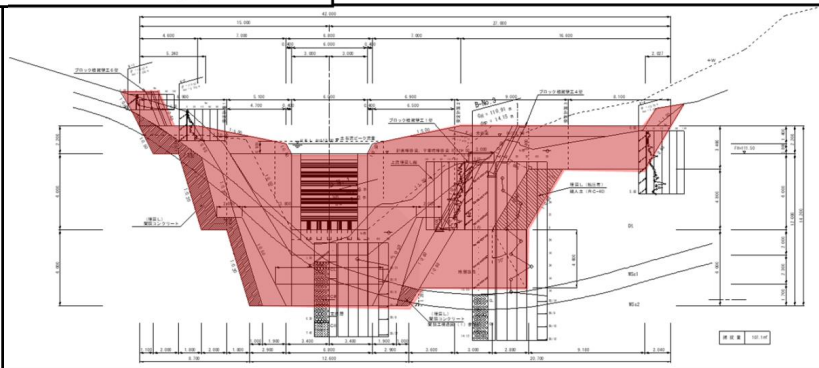


【保全対象】
人家：120戸
立花自治会館、
市消防団清水第17分団小島町
国道52号：380m

【勘兵衛沢】
砂防堰堤1基：透過型

2. 事業概要

正面図・側面図



事業目的

静岡県静岡市に位置する勘兵衛沢は、保全対象として人家120戸、及び静岡市消防団清水第17分団小島町、国道52号等を含む土石流危険渓流であり、土石流による甚大な被害が懸念されるため、砂防堰堤を整備し、土砂災害を未然に防止したい。

事業内容

- ・溪流名：興津川支川勘兵衛沢（静岡市清水区小島町地先）
- ・計画期間：平成29年度～令和9年度
- ・事業費：C=750百万円
- ・事業量：砂防堰堤工 1基（透過型）
堰堤（透過型）：高さ12.0m、堤長42.0m、
計画捕捉量1,034m³

荒廃状況



工事進捗状況



3. 前回からの変更点

前回からの変更点・理由

	前回（R3）	今回（R7）	主な変更理由
①計画期間	H29～R6	H29～R9 （+3年）	・未相続の用地取得について不測の日時を要した。
②全体事業費	470百万円	750百万円 （+280）	・人件費・資材及び土砂処分費高騰のため。

4. 事業の投資効果

事業の投資効果（費用対効果の検証）

総便益（B）

総便益 110.6億円

- ☐ 直接被害
 - ・家屋被害、道路被害、人的被害（逸失利益）
- ☐ 間接被害
 - ・営業停止、交通途絶、人的被害（精神障害）

総費用（C）

総費用 5.8億円

- ・建設費
- ・維持管理費



費用対効果(B/C):19.1 経済的内部収益率(EIRR):25.4%

前回の費用対効果(B/C):15.0

・「砂防事業の費用便益分析マニュアル」の改定に伴い、人的被害額の精神的損害額が2.26億円/人⇒6.01億円/人に上げられたため

5. 今後の事業の進捗の見込み

●事業推進のための取組

- ・ 計画的に事業進捗を推進するために、地元調整を行いながら令和9年度の完了を目指す。
 - ・ 活用可能な建設発生土の現場内での有効活用や他工事への流用、新技術・新工法の活用を検討するなどコスト縮減と工期短縮を図っていく。
-